

- 1.ペーパーバッグ。新聞紙で作られた手作りのエコバッグ。しっかりしていて、意外に丈夫。柿渋を塗ったりして、ある程度の耐水性もある。バッグの柄に使えそうな紙面を見つけると、仲間たちに連絡を回して、取っておいてもらうようにしている。作り方を解説したハンドブックを販売。希望に応じて、ペーパーバッグの出張講習会も開催している。
- 2.新聞紙の軸の鉛筆（試作品）。ナイフで芯を削ることができる。ほかにボールペン、クレヨンなどがある。
- 3.新聞紙を溶かしてつくった花ポット。植物の苗を植えるのに使用するものだが、これを組み合わせて絵などを描き、ランタンなども作られている。
- 4.新聞紙を丸めてスティック状にしたもの。これを板状につなげ、表面に柿渋を塗った試作品。床のクッション材として、介護施設などで使えないかと考えられている。また、スティックをいろいろに組み合わせて他の使い方も検討されている。

新聞紙のリサイクル活動から 地域エコネットワークづくりへ NPO法人新聞環境システム研究所の取り組み

福岡を中心に新聞紙の収集・再利用を中心に活動する新聞環境システム研究所。新聞紙を集めるともらえる公共量交通機関の割引券ペアを発行したり、新聞紙の再利用法を広めたりと、ユニークな活動を行っています。さらに、他の環境問題に取り組み団体と連携しながら、活動の輪を広げつつあります。

ムダに捨てられる新聞紙に疑問

新聞販売店を経営していた川上義光さん（新聞環境システム研究所理事長）は、読み終わった新聞がムダに捨てられることに疑問を抱いていました。資源の浪費であり、環境にも余計な負荷

をかけている…。新聞紙の再利用と公共交通機関の利用促進をリンクできるのでは、と2001年にNPO法人新聞環境システム研究所が立ち上がりました。新聞環境システム研究所の会員に読み終わった新聞紙を持ち寄ってもらい、それらで得た資金で公共交通機

関の利用を促す仕組み「地域通貨」ペアを発行しています。

新聞紙を回収・再利用して公共交通機関の積極利用へ

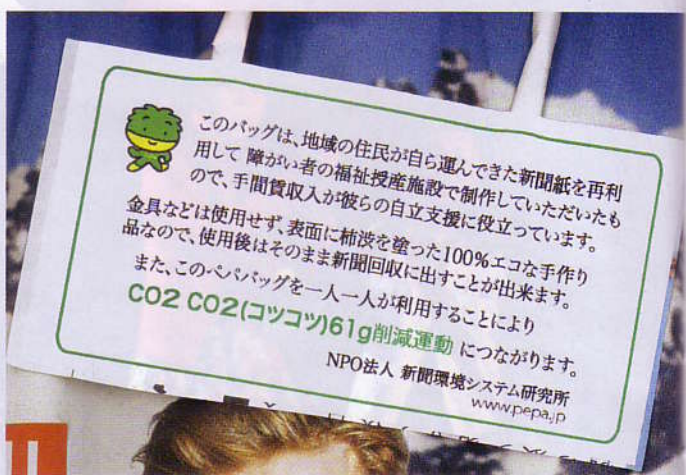
新聞環境システム研究所の会員は新聞紙を持ち寄ると、1キログラムにつ



ベッタ会の活動を紹介したパンフレット「ベッタなくらしをしよう」
新聞環境システム研究所、循環生活研究所、南畑ダム貯水する会の3NPO法人の活動内容を紹介します。3法人が販売しているエコグッズなども紹介されています。

新聞環境システム研究所が発行する地域通貨ペパ。PEPAは Paper Energy, People Actionの略。現在は、福岡・みやこ・北九州・筑豊・筑後地区で使えるペパがあり、それぞれの地区の鉄道、地下鉄、バス、タクシーの割引券として利用されている。

新聞環境システム研究所が販売しているペパバッグについているタグ。これも新聞紙でつくられている。タグには次のように記されている。
「このバッグは、地域の住民が自ら運んできた新聞紙を再利用して障がい者の福祉授産施設で制作していただいたもので、手間賃収入から彼らの自立支援に役立っています。金具などは使用せず、100%エコな手作り品なので、使用後はそのまま新聞回収に出すことが出来ます。また、このペパバッグを一人一人が利用することによりCO2 CO2 (コツコツ) 61g削減運動につながります」



きーペパを自分の資源口座に積み立てることが出来ます。そして、30キログラムごとに地域通貨30ペパ紙幣一枚を引き出すことが出来ます。このペパ紙幣は、公共交通機関(バスや電車)で乗車カードを購入する際に、80円分の割引券として利用できます。できるだけ公共交通機関を利用し、エネルギーの有効活用を促そうという工夫です。地域によっては農産物直販所でも利用できます。ペパは地域ごとに発行されて

集められた新聞紙の大半はリサイクル業者に売却されますが、独自にグッズの開発も行っています。ペパバッグと呼ぶ手作りのエコバッグ、新聞紙を溶かして固めてつくった花ポット、新聞紙を軸にしたペパペン(ボールペン、

福祉施設・介護施設との連携

減国民運動支援地域振興事業費補助金事業に指定されました。
また、ベッタ会では、それぞれの取り組みをまとめたハンドブックを発行したり、出張講座などを行っています。また、ベッタ券を発行し、この券で3団体が販売しているグッズなどを割引価格で購入することが出来ます。ベッタ会の活動は、平成20年度経済産業省環境負荷低減国民運動支援地域振興事業費補助金事業に指定されました。

ベッタの会 エコの更なる広がり

おり、現在は、福岡・みやこ・北九州・筑豊・筑後のペパがあり、1500世帯以上の会員が利用しています。

ペパバッグの作り方講習会は、障がい者福祉施設などでも好評を得ています。「私たちの活動が、身近なところから自分のできる範囲で無理なくできて、環境のことを考えるきっかけになればいいなと思っています」

障がい者施設で制作されたペパバッグは販売され、入所者の方たちの収入源の一つにもなっています。
ペパバッグと新聞収納袋の作り方はハンドブックになっていて販売しており、誰もがペパバッグを手作りできます。また、出張講習会も実施しており、九州にとどまらず全国各地にペパバッグを広めようとしています。
東京事務所代表の遠藤智子さんに、ペパバッグの実物を見せていただきました。広告の面などを利用して、見た目にもきれいに仕上がっており、けっこうつくりも丈夫です。「バッグに利用できそうな面を見つけましたら、○新聞の△月△日の何面をとって置いてと仲間たちに連絡するんです。やっぱり持ち歩くには、きれいな柄や写真が入っているのがいいですものね(笑)」